

クナール河増水、マルワリード II 計画は遅滞なく進行

「PMS・20 年存続体制」が日本側でも理解され、やっと共同歩調が整いつつあることに感謝します。一昨年以来、話題は広域展開に集中していましたが、この間の激変は筆舌に尽くしがたく、「急いては事を過つ」が結論です。やはり着実に足固めをし、「緑の大地計画」を盤石にしながら次の展開を準備することだと、改めて考えています。

現在、ジャララバードは三重苦、四重苦の状態にあります。干ばつの進行、パキスタンからの難民送還、イラクから移動しつつある IS の「コラサン州運動」、外国の干渉と破壊工作、治安の極端な悪化、若者たちの欧米への逃避——まるで計画されたように次々と色んなことが起きてきます。事態は日本の報道から想像される出来事とは随分かけ離れていますが、あえて政治的な動きには触れないでおきます。

人々にとって重要なことは、もうどこにも難民化できず、「ここで生きるか、ここで死ぬかと言えるだけだ」ということです。この中で、PMS 職員たちも腹をくくり、何事もなかったかのように営々と作業を続けています。これだけは間違いがないという、宗教心にも似た確信があるからです。この中で自衛・自存の手段を講じ、職員と村民の安全を確保して耐え、この悪い時代の過ぎ去るのを何年でも待つ積りでおります。

さて事業の方は、ほぼ遅滞なく進んでいます。5 月からインド亜大陸を襲った熱波は、インドで 500 名以上の死者を出したと報ぜられ、ここジャララバードでも室内気温 35℃、外気温 40℃以上、クナール河全域で急激な雪解けと増水が始まりました。マルワリード II の堰（カチャラ村）の状態を先ず点検しま

したが、今のところ理想的な形で安定しています。灌漑路はカチャラ分水路 1 を完成、コーティ分水路は目標地点 1 km を完了し、現在最終点でサイフォンが建設されています。7 月初旬までにコーティ分水路は完成します。カチャラ分水路 2（約 450m）は 9 月までに開通予定です。洪水に備える護岸工事の先端は、昨年建設したしめきり堤と連続し、間もなく約 6 km 地点に達しようとしています。

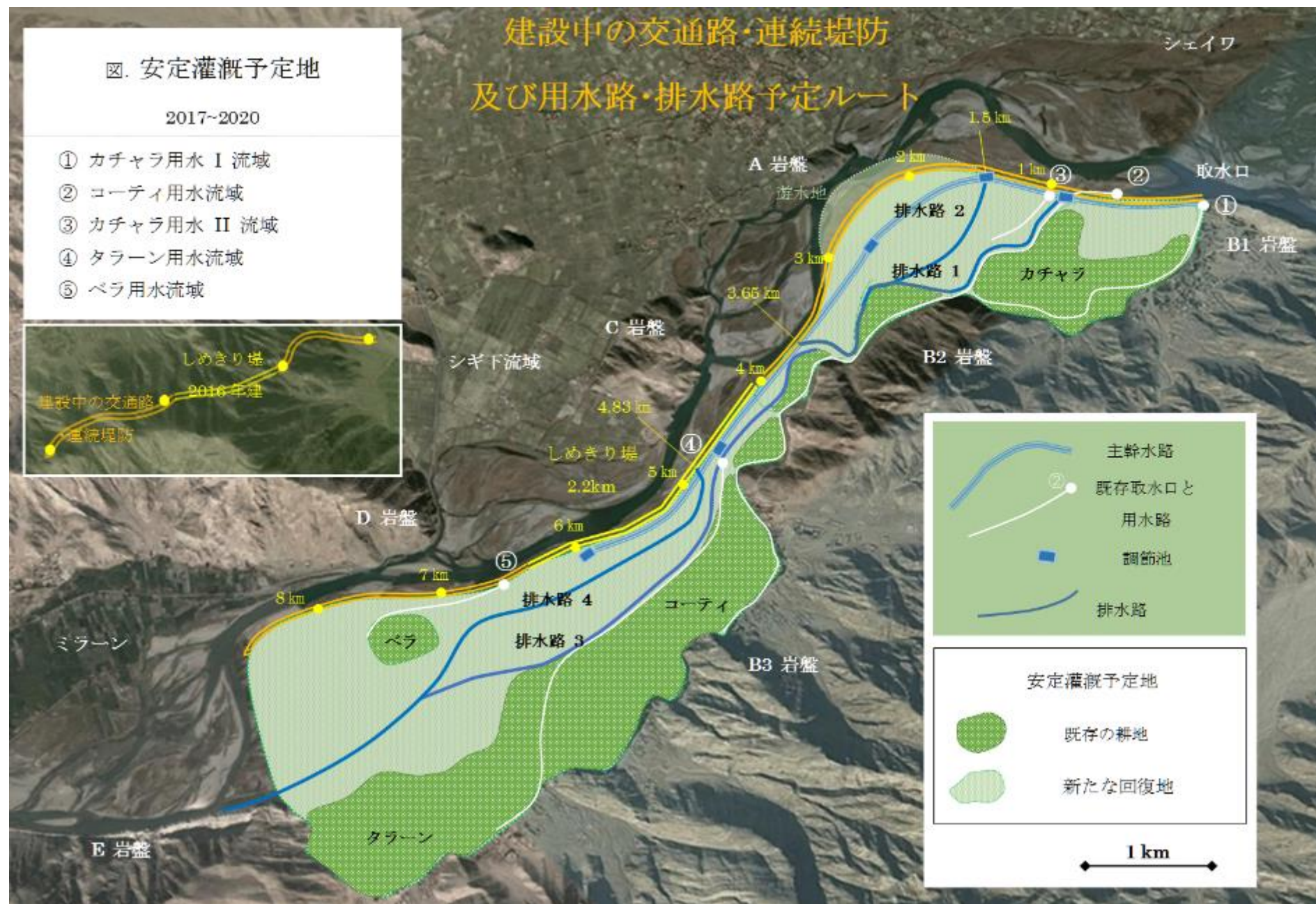
現在力を入れているのは、1. 洪水期に向けて護岸仮工事・交通路の敷設（約 8.4 km）と、2. 臨時灌漑路の造成です。2 については、送還難民の急増で村の農業生産力を増して帰農を促すためです。とても全工事が終わるまで（4 年間）待てない村もあり、とりあえず荒蕪地の回復を全域で目指します。そのためには、未完成であっても、とにかく下流へ仮水路を伸ばして送水を可能にし、後は時間をかけて完成していくという方針を採りました。

確かに暗い話が多いですが、職員・作業員一同、みなはつらつと働いています。もう迷いが無いのです。この事情を斟酌いただき、「20 年存続体制」へ向けて、一層のご協力をお願い申し上げます。皆さんもお元気で。

2017 年 6 月 12 日 記

追記；ガンベリ主幹排水路は仕上げの段階に入り、7 月中には終了と見ています。ミラーンの訓練所は 2 階部分を終え、10 月までに竣工確実です。カマ堰改修は断食月中に測量を終え、計画書を作成します。これらは明後日に詳細をお伝えします。

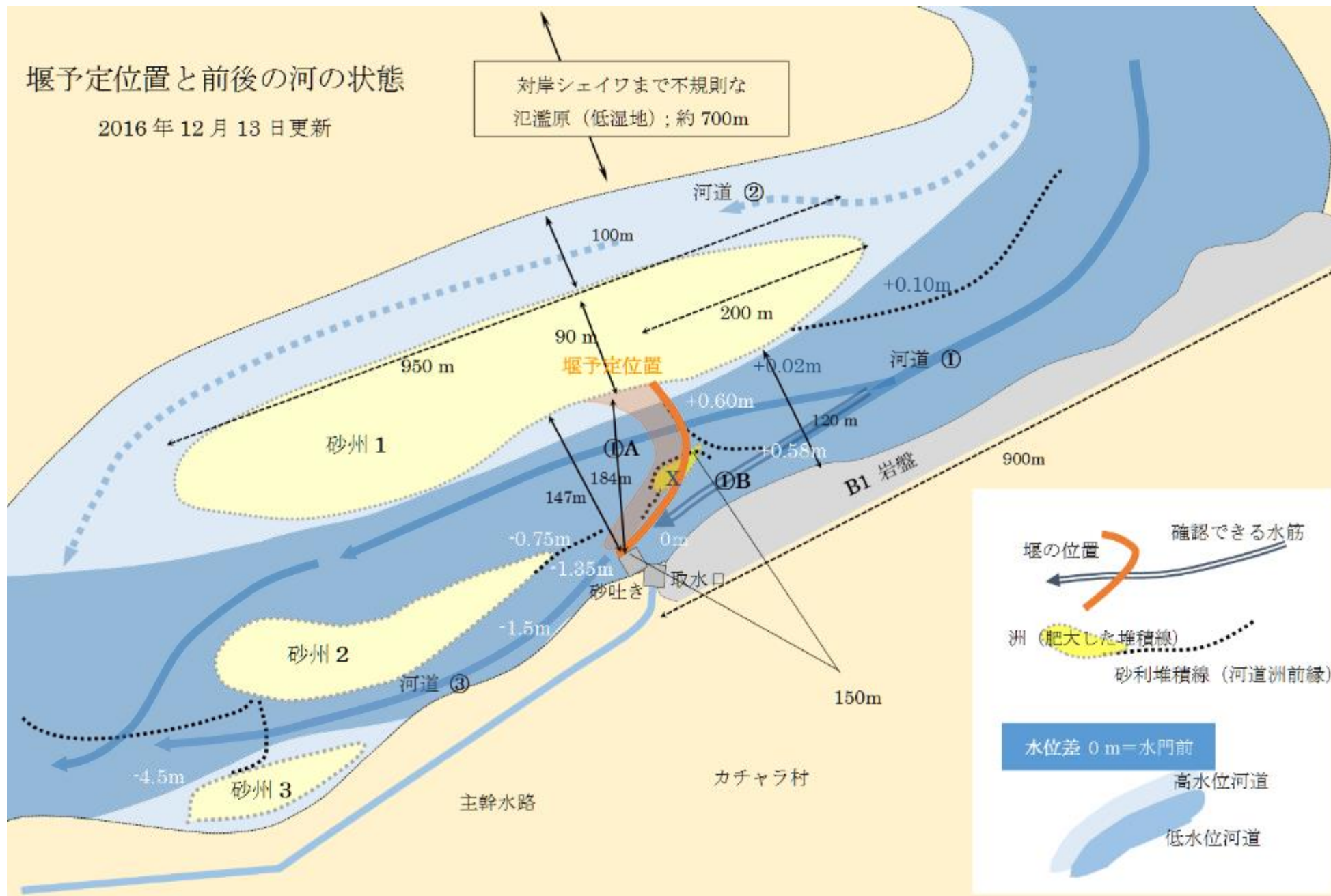
改訂版です。こちらがより正確ですので、以後これを参照して下さい。主要排水路のルートが測量で正確になっています。現工事点は3～4 km地点で、既にしめきり堤と連続しています。



マルワリード II 堰の下流部と取水門の現在。取水口部で水位は約 1.5m、この季節にしては安定している。主幹水路は更に伸び、ライニングの先端は現在 1.5 kmに迫っている。約一か月間降雨なく、酷暑。2017 年 6 月 12 日



堰前後の地形。増水時に、河道②への流量が確保されるか、岩盤沿いの水筋が保たれるか、越流した水が河道中央に集められるか、対岸の浸食が発生するか、などの点が焦点だった。図に示してある水面差は、厳冬期のもの。



取水門から上流約 150m までの堰の様子。B1 岩盤沿いの水筋は殆ど位置の変化なく、土砂吐き前でやや分散するが、主流は土砂吐きを通過しているのが分かる。
2017 年 6 月 12 日 （みお筋；深い急流が通過する河床で、釣り人によく知られる。主要河道の深い部分を示し、砂利堆積の様子などを知る上で良い目安となる。）



堰上流側。砂州①に連続する部分（河道①A、幅約 100m、長さ 40～70m）が浅い荒瀬をなし、主な流れは岩盤側（河道①B）に集中しているのが分かる。不安要因は旧河道洲（X）の河床材料で、砂層が厚い場合は堰の部分的低下が起きる。しかし、低水位期に容易に改修が可能。2017 年 6 月 12 日



砂州①の上流端と河道①・②の分岐部を示す。主要河道は対岸シェイワから急角度（約 100° ）で B1 岩盤につき当り、岩盤に沿って深い流れを作る。この深い流れは大洪水でも大きく変化しない。昔から安定した取水口があるのは、このような地形である。2017 年 6 月 12 日



取水門下流側。おなじみの二重堰板方式。2017 年 6 月 12 日



分水路は完成し、既存水路に必要なだけ送水できる。灌漑面積は推定約 100 ヘクタール。農地の拡大が起きても、悠々と必要水量を送れる。夏休みの子供たちが群れて水辺で遊んでいる。水路 80mはどぶ板で覆い（完成）、交通路を敷く。いずれ家屋が密集する。2017 年 6 月 12 日



植樹風景（100m地点）。川表では巨礫間にヤナギを密植して、石材の転動を防ぐ。2017年6月12日



コーティ分水路の最終点。カチャラ分水路と交差するので、サイフォンで立体交差させる。堰と沈砂池で余分な水がひこまれず、沼地が急速に減少、耕地を広げている。このような小さな構造物は、PMSの技師が自分たちで作れるようになっている。2017年6月12日

